



多摩市立瓜生小学校

瓜生小だより

令和4年度 第5号
令和4年 8月25日

前期後半のスタートです

校長 水野 裕司

7学級中4学級が学級閉鎖という大変な状況下での夏休みスタートとなりました。私自身も7月13日から10日間の隔離生活に入ってしまった。その時は、「熱が下がったら、たくさん本を読むぞ。」と思っていました。結果は0冊でした。熱が下がってもまだ本も読もうという元気が出ない時に、ベッドの上で何気なくYouTubeを見てしまったのが失敗でした。日頃ほとんど見ることがなかったのですが、あっという間に動画の大海原で漂流することになってしまいました。隔離期間が明けた時、時間を無駄にした虚しさが残ったのと同時に自分の思いとは関係なくついつい動画をタップして止まらなくなってしまう怖さも感じました。でも、仕事というやるべきことがある。勤務時間という枠がある。というのはありがたいものです。夏休みで子供たちのいない学校ではありましたが、出勤再開後は、生活リズムを元に戻すことができました。この夏休み、ゲームやSNSに限らず、生活リズムが乱れてしまった子供たちもいたのではないのでしょうか。「学校が始まった」「友達と会える」という絶好の機会を逃さずに、しっかりと生活リズムを切り替え、新たな気持ちで前期の後半をスタートしていきたいと考えています。ご家庭での温かい励ましをよろしくお願いいたします。

夏休みの間、4月に6年生で実施した全国学力調査の結果が送られてきました。

瓜生小の特徴的な傾向を2つ発見しましたので、紹介します。

- 特徴① 「メスシリンダー」という名前は覚えていないが、その目盛りの正しい読み方は知っている。というように、正確な知識を問われる問題の正答率はあまり高くないが、実験など自分で活動したことについての設問の正答率が高い。
- 特徴② 選択肢の中から正解を選ぶ問題の正答率は低い傾向にあるが、自分の考えなどを記述して回答する問題の正答率が高い。

- ① については、瓜生小の特徴は当たり前のように感じます。全国や東京都の平均でも、同様の傾向が見られますが、瓜生小はその傾向が大きく、基本的な知識の定着を大切にすることが分かりました。
- ② については、全国や東京都とは逆の傾向が見られました。記述での回答で無回答の児童がほとんどいなかったことは、日頃の子供たちの学習に取り組む姿勢が表れていて、大変誇らしく感じました。一方、選択肢の違いを読み取り理解することは苦手であることが分かります。一つ一つの言葉を注意深く整理しながら読むという粘り強さを高めていきたいと考えています。

さて、前期の後半の9、10月は、多くの校外学習が予定されています。校外学習は、自然や社会で働く人々に直接触れることのできる大切な学習活動です。6年生の移動教室、3、4年生の高尾山遠足、1、2年生の多摩動物公園遠足、5年生の社会科見学と、それぞれ目的は違いますが、充実したものにしていきたいと考えています。一方、7月の6年生の社会科見学は、学級閉鎖のため延期となってしまいました。社会全体のコロナウィルスの感染状況も心配ではありますが、まずは瓜生小の児童が健康でなければ実施できません。日常の感染症対策をしっかりと、全学年が予定通り実施できるようにしていきたいと考えています。こちらの方も、家庭のご協力をよろしくお願いいたします。